

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2018年7月3日発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井宣光

You shall love the Lord your God with all your heart, with all your soul, and with all your mind.

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(マタイによる福音書 22:37)

「英語の松蔭」の向こう側

先月をはじめ、第1回の英検が各地で実施されました。本校も今年度より本会場（一般受験会場）となり、小学生から社会人まで約600名の方々が、松蔭の教室で各級の一次試験に臨みました。松蔭では、第1回、2回英検は外部会場での受験を推奨し、第3回は1年の総仕上げとして校内を英検・TOEIC 準会場とし、全校生徒が受験するシステムをとっています。英検2級取得済の生徒については、TOEICの得点アップを目標にしてきましたが、2級や準1級合格者数は順調に増え、生徒全体の英語力が確実に伸びてきました。TOEICはビジネス分野関連の内容が多く、将来的には有用であっても中高生には適当とは言えない等の問題点が指摘されていたこともあり、英語科で検討した結果、2019年度より松蔭では、英検の本会場受験とGTECという検定試験を併用することにしました。今年度は移行期として、2学期に高1、高2でGTEC受験を実施する方向で準備をすすめています。英語「4技能」という言葉をよく聞きますが、「聞く」「読む」「話す」「書く」の各スキルを多角的に学び、習得した英語力を点検し、さらに向上させることが求められています。中学と高校で英語を勉強した大人世代にとっては、インターネットによるオンライン英会話など隔世の感がある現在の英語教育です。グローバル社会のなかで学校英語教育は大きな転換期を迎えています。

ポスターや車内広告などでもご存知かと思いますが、現在「英語の松蔭」を合言葉に学校をアピールしています。小学校の英語必修化を意識していることは事実ですが、これは松蔭の歴史的な経緯に裏づけられた合言葉であり、女子教育の理念にもつながっていることを説明したいと思います。

松蔭の建学以来の聖公会キリスト教に基づく教育理念と英語教育は、第2次大戦中、外国人教員の追放やキリスト教と英語教育禁止の措置によっていったん完全に消滅しました。しかし、戦後復興のなかで、米国聖公会からの支援によりキリスト教主義教育と実用的な英語教育を再開し、「英語の松蔭」と評されるようになりました。当時のESS部が英字新聞「PINE CONE」(松ぼっくりの意味)を定期的に発行していましたが、昨年、ESS部が制作した英字新聞「SHOIN TIMES」はこれをモデルにしました。キリスト教と英語教育という松蔭の原点の姿が、戦後の新たな学校制度のもとで復活し、評価を得るようになったのです。その後の高度経済成長とベビーブームにより生徒数は急増し、100名を超える高校入学生を加え、1学年が500名を超すこともありました。マンモス化した学校でしたが、生徒の個性を尊重する教育姿勢は変わらず、楽しく充実した学園生活がありました。



<1960年発行の英字新聞「Pine Cone」>



<2017年発行の「SHOIN TIMES」>

一方で、6学年2600名もの巨大な規模は、きめ細やかさという点において学校教育の質を後退させ、それまでの国際的な雰囲気は少しずつ変容していきました。1960年代後半からは、中高から短大・大学までの女子一貫教育の方針をとり、国公立大など他大学への進学は生徒個々の問題と見なされるようになり、学校全体として他大学への進学指導やその裏付けとなる学力指導が10分に行われていたとは言い難いことも事実としてありました。

21世紀の今、グローバル化の波が引き起こす様々な問題が、子供たちが直面する現実として目の前に存在しています。松蔭生が、自らの未来を自らの力で生き抜く力を身に付けるためにできることは、今こそ松蔭の原点に戻る時だと考え、英語教育を学校の第一の柱として定めたわけです。現在「英語の松蔭プロジェクト」として、インターナショナルスクールでのアシスタントプログラムや英検準1級講座を開講しているほか、授業ではエッセイライティング(英語による論理的な文章作成)を行うなど、他校にはない特色ある英語教育を行っています。オンライン英会話は外国人との1対1の対話で、教員に手助けを求めることはできません。回を重ねるごとに堂々と話す度胸が身に付きます。エッセイライティングにより論理的思考を身につけて、自分の意見を表明できるようになります。たとえ小さくとも芽生えた自信は、他の分野へのチャレンジ精神を刺激します。グローバル社会で必須のコミュニケーション力としての英語の学習を通じて、社会に出る女性に求められる力が育成されます。英語の松蔭の向こう側には、個として自立する生徒の将来の女性像があります。

今年度の中学校入学式では、千と勢会(同窓会)のトーマス三香会長より、英語スピーチでお祝いのメッセージをいただきました。中高時代に育まれた松蔭スピリットを持つ“Shoin Alumni”(松蔭の卒業生たち)が世界各地で活躍していることを伝え、学校で知識やスキルを身に付けて自分の未来の可能性を広げようとおっしゃいました。トーマス会長は松蔭高校35回生(H35)で、彼女自身も仕事と家庭を両立させ、社会で活躍しておられる誇りうる卒業生です。「英語の松蔭」の向こう側にあるものを見ずえた、新入生への素敵なメッセージでした。その一部を紹介します。(裏面に続く)

Now I would like to tell you a bit about Shoin, Shoin is a very special school. The students of this school are often described as full of energy, expressive, dynamic, compassionate. When you meet a group of people, you can almost tell who graduated from Shoin. I believe this is because the students are encouraged to express what they think and pursue their dreams. They are willing to be the leaders and in charge of school projects and events. And this leadership goes beyond the school years. There are now close to 15,000 alumni members living in Japan and overseas. They are living their dreams and pushing themselves to reach their goals. Shoin graduates include women working in multinational corporations in Canada and the United States, Olympic athletes, a singer in Brazil, a flower master in a famous temple in Kyoto, famous actresses, researchers, teachers, fashion designers, and many, many others. They are smart and brave and kind to others, and this school and especially the people who come here nurtured those qualities. Now, you have just entered this school and your future is full of possibilities. I hope you will study hard and gain knowledge and skills while you are here. You will be taking all of these skills and experience with you for the rest of your lives. What you learn and gain here will help you and guide you to find your special place in this world. It is the beginning of a wonderful journey! Congratulations on the start of your Shoin adventure. God bless you.

(2018 年度中学校入学式 千と勢会代表祝辞より一部抜粋)

あらためて“Open Heart, Open Mind”のスクールモットーを抱いて

何年も前になりますが、ある方が“Open Heart”の言葉を聞いて思い出したことを教えてくださいました。かつて米国で歯科を受診した時のこと、治療を想像して表情がこわばっている自分に対して医師が“Open your heart”と声をかけてくれた、というお話でした。リラックスして、という意味合いだったのでしょうか、心が開かれれば、身体も柔らかくほぐれるのでしょうか。

エセルホールの由来となった第8代校長の英国人女性エセルは、体調を崩して英国へ帰国した後、“Japan and her people”を著しました。彼女は、大正期の日本に存在した、集団主義的な学校教育と、男尊女卑の風潮のもとで女性が自由に物申せない社会には問題があることを感じていました。キリスト者としても、神様のもとで個々の人間が、特に女性が平等に尊重されない状況は改められるべきことでした。しかし、そのことを直接批判することは、当時の国内で学校教育を行う上で許されることではありません。ならば、一人ひとりの女学生が、神様に愛されている人間どうし、心を開く姿勢を身に付けてたがいに自由に意見や考え、思いを語り合うことが出来れば、日本女性はしっかりと生き抜くことができるだろうと考えて“Open Heart”をとらえたのです。エセル校長は、自ら家庭訪問も頻繁に行い、保護者と話したという記録があります。彼女の教育理念を各家庭でもわかってもらおうという思いがあったものと理解しています。家庭と学校の両方でしっかりと子供を見守りながら、個人の自由を尊重し、寛容でおおらかな校風のもとで教育活動を行う松蔭のあり方は、この時代に打ち立てられたのです。

2018 年度より、“Open Heart”と“Open Mind”を並べてスクールモットーとしています。Heart と Mind の違いはというと、冒頭の聖句のように、heart=心、mind=思い、と訳されています。聖書

に述べられている「心」や「精神」、「思い」をどのように理解するべきかについては解釈がわかれるところですが、先入観や偏見を持たず、人間と人間として、個と個として向かい合い、誰とでも気さくに話せる関係を大切に、その精神を持って人生を歩もう、というモットーです。国籍、人種、民族、性別、経歴、障害など、人と人の間の壁を乗り越え、自由な思考で相手に関わる、分け隔てなく交わる、フェアに関わるという姿勢は、21 世紀を生き抜く女性に必要な素養です。

松蔭のスクールモットーは、「英語の松蔭」の向こう側にある自立した女性を育てていくことを確信しています。卒業後、社会に出て親から独り立ちする時に必要な力の基盤を中高時代に育む教育の中身をつくろうと、教職員一丸となって学校改革をすすめています。 ” Open Heart, Open Mind”の空気が漂う学校教育づくりはもちろんのこと、すべての卒業生がその精神を実践する、自立した女性へと成長するよう願っています。

2017 年度学校評価アンケートより

中 2 から高 3 までの保護者の皆様には、アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果については、先日の PTA 運営委員会に報告いたしました。今後、学校ホームページの「学校評価」に公表する予定です。アンケートの自由記述欄には多岐にわたるコメントをいただいております、改善できることを順次進めています。4 月の校長室だより紙上に、今年度の学校運営方針についてお知らせしていましたが、その 1 つに「生徒の安全を絶対のものとして確保し、保護者の安心感を高める措置を講じる。」というものがあります。アンケートでは、子供の登下校を知らせる、保護者への連絡システムを入れてほしいとの要望があり、今年度 2 学期より、「阪急阪神の安心サービス『ミマモルメ』」を導入することにしました。生徒を通じて案内文書を配布します。また、ささいなことですが、南館和室の障子が傷んでいることもご指摘を受けましたので、張替えを行いました。

今年度末に実施する予定の学校評価アンケートでは、6 日制授業の実施などに関連する設問を加える予定です。これを待たずとも、ご意見、ご要望等がございましたら、ご遠慮なく直接、校長室までご連絡いただきますようお願い致します。

私学助成（2017 年度補助金額）

私立学校の経営は保護者の皆様から納入いただく校納金ならびに兵庫県、神戸市の補助金により成り立っています。本校では、学校会計の約 3 分の 1 を占めており、前年度の学校教育活動が精査されたうえで、補助金（私学助成）額が決定されることになっています。昨年度（2017 年度）の本校への助成金額が下記のとおり確定したとの通知を県より受けましたので、お知らせいたします。

2017 年度私学助成金	
①兵庫県経常費補助金など	323,795,000 円
②国庫補助金	3,527,000 円
③就学支援金	36,689,400 円
④神戸市助成金	2,586,581 円